体等等夕称	『の』望ましい食生活で健康長寿を目指します	体系番号	0101010802
施策等名称	の 主ましい民土冶で健康技術を日拍しまり	主管課	健康づくり推進課

1 施策基本情報

<u>'</u>	現状		本情報 B題	朝食欠食や	育に重点を	ど、若い世代をはじめる 置きながら、全ての人が 原因とする骨粗鬆症、原	が、生活習 <mark>慣病</mark> の ³	予防と重症化予防に	こ取り組むことが					
			基本的	「主食・主菜命の延伸を	・副菜」のそろ 目指します。	った食事や、適塩を心	がけ、市民一人ひ	とりが自分の健康も	犬態に合った食気	E活を実践し、	健康寿			
				指標名称		指	標の説明(単位)		計画策定時	2022年度目 2027年度目				
	1	朝重	を食べる	る人の割合(5	歳児)	朝食を食べる人の5歳	関の割合(%)		94.00	97.00 100%				
施	2	朝重	を食べる	る人の割合(小	〉学5年生)	朝食を食べる人の小	学5年生の割合(%	6)	92.00	93.00				
策指	3	朝倉	を食べる	る人の割合(q	学2年生)	朝食を食べる人の中	 学2年生の割合(%	6)	89.00	95.00 100%				
標	4	朝1	を食べる	5人の割合(2	0~30歳代)	朝食を食べる人の20	~30歳代の割合(⁹	%)	データなし	87.00 85%以				
	5	朝重	を食べる	る人の割合(4	0~70歳代)	朝食を食べる人の40		%)	データなし	90.00 90%以				
	6			の予防のため		生活習慣病の予防の減塩等に気をつけた			データなし	72.00 75%以				
		名	ATT	合ったパラン			民工店で天成りも	主管課	健康へ	づくり推進課				
		称 個々に合ったハランスの良い食事 詳 細 年齢、体格など一人ひとりの状態		にあったパランスの良し		☆ができるよう支援し 2022年度目標値								
	1	まちづくりの目標指標 指標			指標	の説明(単位)	計画策定時	2022年度日標值	柱を構成する主	要事務事業	区分			
		1 1	離乳食教室参加者数離乳食教室			参加者数(人)	180	200	1 食育事業 3					
		2				アンケートで、「朝食 ・副菜のそろってい 56.00		58.00	3					
						(%)(20-70歳代)		60.00%以上	5					
		3 基本	本政策間連携						5 6					
施		名名 生活習慣病予防のための食生活を実践する ・ 主管課 健康づくり推進課												
策の体		ŧ	きちづくりの	の目標指標	指標	の説明(単位)	計画策定時	2022年度目標値 2027年度目標値	柱を構成する主	三要事務事業	区分			
体系	施策			講習会参加		員が開催する地区料	690	710	1 食生活改善推進事業		実施			
	の柱	1	皆数		理講習会の	参加者数(人)		720	2					
	2			善推進員養		推進員養成講座参加	76	90	3					
		² ,	戊講座参 :	加者のべ数	者のべ数(人	S	70	120	4					
			栄養関係	講座受講者	民館、高齢者	座受講者数(地区公 ちクラブ、保健補導員	380	450	5					
			政策間連	- 携	会、お達者教	X主守八人)		600	6					
		名称評細												
	施策のは	## ま 1	きちづくりの	の目標指標	指標	の説明(単位)	計画策定時	2022年度目標値 2027年度目標値	柱を構成する主	要事務事業	区分			
	柱 3	2							2 3 4 5					
			政策間連	携					σ .					

施策等名称	□ Γ Λ I	望ましい食生活で健康長寿を目指します	
心外寸口仰		主よしい 反工力 い健康 攻力で 口拍しよう	

 体系番号
 0101010802

 主管課
 健康づくり推進課

2	指標等の推移と変動要用	=
_	担信寺の作物で多則安し	N

	担信等の 本系区分	推移と変動要因	計画策定時	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度					
-	キボビル 指標No.	成果指標名	中間目標値				(実績値÷目標							
	施策	朝食を食べる人の割合(5歳児)	94.00	96.00	94.00	95.00	96.00	98.00	97.00					
	1	WINCE CONCORDE (CMC)	97.00	98.97	96.91	97.94	98.97	101.03	100.00					
	2018年度	朝食を食べる5歳児の割合は、横ばいだった。	。乳幼児健診や保	育團、幼児教育	言課で繰り返し	朝食の大切さる	訴えている。							
水	2019年度	朝食を食べる5歳児の割合は、横ばいだった。	。乳幼児健診や保	育團、幼児教育	育課で繰り返し	朝食の大切さを	訴えている。							
変動	2020年度	朝食を食べる5歳児の割合は、横ばいだった	。乳幼児健診や保	育團、幼児教育	育課で繰り返し	朝食の大切さる	訴えている。							
要因	2021年度	朝食を食べる5歳児の割合は、横ばいだった	乳幼児健診や保	:育園、幼児教育	育課で繰り返し	朝食の大切さる	訴えている。							
等	2022年度	朝食を食べる5歳児の割合は、横ばいだった。	乳幼児健診や保	育園、幼児教育	育課で繰り返し	朝食の大切さる	訴えている。							
	2023年度	朝食を食べる5歳児の割合は、横ばいだった	乳幼児健診や保	音圖、幼児教育	・ 管理で繰り返し	朝食の大切さる	訴えている。							
	施策		89.00	92.00	90.00	89.00	88.00	91.00	89.00					
	2	朝食を食べる人の割合(小学5年生)	93.00	98.92	96.77	95.70	94.62	97.85	95.70					
	2018年度	朝食を食べる小学5年生の割合は横ばいだっ	た。学校で、児童	や保護者に朝	食の大切さを伝	えている。		<u> </u>						
	2019年度	朝食を食べる小学5年生の割合は横ばいだった。学校で、児童や保護者に朝食の大切さを伝えている。												
変動	2020年度	朝食を食べる小学5年生の割合は横ばいだった。学校で、児童や保護者に朝食の大切さを伝えている。												
要因		朝食を食べる小学5年生の割合は横ばいだっ												
等						-								
		朝食を食べる小学5年生の割合は横ばいだっ												
		朝食を食べる小学5年生の割合は横ばいだっ	朝食を食べる小学5年生の割合は横ばいだった。学校で、児童や保護者に朝食の大切さを伝えている。											
	施策	朝食を食べる人の割合(中学2年生)	89.00	91.00	91.00	86.00	85.00	88.00	91.00					
	3	超点中点 47上地上の間入江 、压压器和1	95.00	95.79	95.79	90.53	89.47	92.63	95.79					
		朝食を食べる中学生の割合は、やや増加した												
変	2019年度	朝食を食べる中学生の割合は、横ばいだった	:。学校で生徒や代	保護者に朝食の)大切さを伝えて	ている。								
動要	2020年度	朝食を食べる中学生の割合は、やや減少した	≿。学校で生徒や化	保護者に朝食の)大切さを伝え	ている。								
因等	2021年度	朝食を食べる中学生の割合は、横ばいだった	:。学校で生徒や伊	保護者に朝食の	大切さを伝えて	ている。								
47	2022年度	朝食を食べる中学生の割合は、横ばいだった	:。学校で生徒や(保護者に朝食の	大切さを伝え	ている。								
	2023年度	朝食を食べる中学生の割合は、横ばいだった	:。学校で生徒や保	保護者に朝食の	大切さを伝え	ている。								
	施策	類本ナキマス L の関係 (00 - 100世代)	67.00	70.50	69.00	60.00	75.00	64.00	70.00					
	4	朝食を食べる人の割合(20~30歳代)	87.00	81.03	79.31	68.97	86.21	73.56	80.46					
	2018年度	20~30歳代の朝食を食べる人の割合は、策	定時85%から82%	に減少した。年	代別は、調査	の母数が少ない	いため、正確に	出せなかった。						
_	2019年度	20~30歳代の朝食を食べる人の割合は、増	加傾向にあるが、	調査の母数が生	▶ないため、正	確に出せなかっ	た。							
変動	2020年度	20~30歳代の朝食を食べる人の割合は、減	少したが、調査のは	母数が少ないだ	め、正確に出	せなかった。								
要因	2021年度	20~30歳代の朝食を食べる人の割合は、増	加傾向にあるが、	調査の母数がな	♪ないため、正	確に出せなかっ	った。							
等	2022年度	20~30歳代の朝食を食べる人の割合は、減	ツしたが 調査の	日数が少ないた	-め、正確に出・	せなかった。								
							<u>.</u>							
		20~30歳代の朝食を食べる人の割合は、増				1	-	00.00						
	施策 5	朝食を食べる人の割合(40~70歳代)	90.00	87.00 96.67	91.00	94.00	93.33	86.00 95.56	88.00 97.78					
		40~70歳代の朝食を食べる人の割合は、増						30.00	370					
		40~70歳代の朝食を食べる人の割合は、増												
変														
動要		40~70歳代の朝食を食べる人の割合は、増)/C。							
因等	2021年度	40~70歳代の朝食を食べる人の割合は、減	少したが、調査の	母数が少ないた	:め、正確に出・	せなかった。								
	2022年度	40~70歳代の朝食を食べる人の割合は、横	ばいの傾向だが、	調査の母数が	少ないため、正	確に出せなかっ	ot:。							
	2023年度	40~70歳代の朝食を食べる人の割合は、横	ばいの傾向だが、	調査の母数が	少ないため、正	確に出せなかっ	ots.							
	施策	生活習慣病の予防のために望ましい食生活	データなし	50.00	47.00	59.00	59.00	49.00	60.00					
	6	を実践している人の割合	72.00	69.44	65.28	81.94	81.94	68.06	83.33					
	2018年度	ふだんから適正体重の維持や減塩等に気を							LIAL ·-					
被	2019年度	生活習慣病の予防の為にふだんから適正体 るよう呼びかけていく。	重の維持や減塩等	等に気をつけた 	度生活を実践:	する市民の割合	けは、減少傾向に	こある。来年度に	ま増加してい					
変動	2020年度	生活習慣病の予防の為にふだんから適正体	重の維持や減塩等	等に気をつけた	食生活を実践	する市民の割合	は、増加した。							
要因	2021年度	生活習慣病の予防の為にふだんから適正体	重の維持や減塩等	等に気をつけた	食生活を実践	する市民の割合	は、増加した。							
等	2022年度	生活習慣病の予防の為にふだんから適正体	重の維持や減塩等	等に気をつけた	食生活を実践	する市民の割合	は、減少した。	来年度は増加し	しているよう呼					
	2023年度	びかけていく。 生活習慣病の予防の為にふだんから適正体	電の維持が減失を	さに 信えへ はも	金生子太安 唑 -	ナス市民の割る	計 横加 た							
	2023年度	エル日頃州ツド町の角にかにんかり越上体	三い転付で高温*	テにメイで ノリブこ	民工心で天成	プロスリア できる	は、相加した。							

- 年 年 夕 秋	ra i	切士 八合出汗で降車 厚また日也 士	-4
拖策等名称		望ましい食生活で健康長寿を目指しま	; 9

 体系番号
 0101010802

 所管課
 健康づくり推進課

	心来可口巾	100』 至よしい・及工力 に健康で	AT E 11 11 11 11 11 11			所	·管課	健康づく	り推進課				
No.		成果指標名	計画策定時中間目標値	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度 (実績値÷目標	2022年度	2023年度				
	柱1		180	256	169	109	122	123	127				
	1	離乳食教室参加者数	200	128.00	84.50	54.50	61.00	61.50	63.50				
	2018年度	離乳食教室参加者数は、増加した。7~8か月児対象の教室を、年6回から12回に増やして実施したため。											
-de-	2019年度	E 離乳食教室参加者数は、減少した。コロナウイルス感染防止の関係で3月の教室を中止した。											
変動要	2020年度	新型コロナウイルス感染拡大防止の関係で4	月、5月の離乳食	教室を中止した	•								
因	2021年度												
7	2022年度	加者は横ばいの傾向。出生数の減少やSNSの影響が考えられる。 加者は横ばいの傾向。出生数の減少やSNSの影響が考えられる。											
	2023年度												
	柱1	朝食で「主食・主菜・副菜」のそろっている人	56.00	38.00	40.00	43.00	54.00	45.00	42.00				
	2	の割合(20-70歳代)	58.00	65.52	68.97	74.14	93.10	77.59	72.41				
	2018年度	食で、主食、主菜、副菜がそろっている保健補導員の割合は減少した。											
-	2019年度	朝食で、主食、主菜、副菜がそろっている保健	軸補導員の割 合は	増加した。									
変動要	2020年度	朝食で、主食、主菜、副菜がそろっている保健補導員の割合は増加した。											
因	2021年度	朝食で、主食、主菜、副菜がそろっている保健補導員の割合は増加した。											
7	2022年度	朝食で、主食、主菜、副菜がそろっている保健	建補導員の割合 は	:横ばい。									
	2023年度	朝食で、主食、主菜、副菜がそろっている保優	は補導員の割合は	横ばい。			,						
	柱2	地区料理講習会参加者数	700	711	577	-	-	-	42				
	1	业界利用等现入企业来等于 推进 、1* 。1	710	100.14	81.27	-	-	-	5.92				
	2018年度												
变													
動要因	2020年度												
等	2022年度												
	2023年度	コロナ後になり、地区料理講習会としては1回	、全地区対象の料	料理講座を2回、	開催した。								
	柱2	食生活改善推進員養成講座参加者のべ数	122	122	60	0	30	44	57				
	2 2018年度	食生活改善推進員養成講座受講者、の延べ	120 人数は横ばいだっ	101.67 った。	50.00	0.00	25.00	36.67	47.50				
	2019年度	食生活改善推進員養成講座受講者、の延べ	人数は大幅に減ら	シした。参加者	数が減少したた	<u></u> හ්.							
変動	2020年度	新型コロナウイルス感染拡大防止の関係で調											
要因	2021年度	新型コロナウイルス感染拡大防止の関係で調	■ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	———— 催した。									
等		新型コロナウイルス感染拡大防止の関係で調											
	2023年度	講座はコロナ前に戻り、参加者も増えている。											
	柱2	栄養関係講座受講者数	380	636	656	147	108	314	351				
	3	不变因际特定文件有数	600	106.00	109.33	24.50	18.00	52.33	58.50				
	2018年度	公民館や高齢者クラブでの栄養講話の受講者	皆は減少した。高	齢者クラブでの	開催回数が減ら	少している。体持	操の需要が多い	いためか。					
亦	2019年度	公民館や高齢者クラブでの栄養講話の受講者	皆は減少した。高	齢者クラブでの	開催回数が減れ	少している。体	操の需要が多 し	いためか。					
変動要	2020年度	新型コロナウイルス感染拡大防止の関係で需	要が少なかった	•									
数	2021年度	新型コロナウイルス感染拡大防止の関係で需	要が少なかった	•									
••	2022年度	新型コロナウイルスの影響が落ち着いてきた	ので、需要が回復	[してきている。									
	2023年度	足腰おたっしゃ教室のフレイル予防の食事の	話が増加している										

3 評価・改革改善(単位:円)

半価・改	<u> 单改善</u>											(単位:	:円)	
項	目	2018年(前年	拝度比)	2019年(前4	年度比)	2020年(前年	F度比)	2021年(前年	年度比)	2022年(前	年度比)	2018年~2023	年(総括	
投資額	事業費(円)	982,570		893,285	0.91	314,396	0.35	573,104	1.82	548,359	0.96	723,134	1.32	
(2018年	うち一財(円)	68,144		65,735	0.96	248,510 新型コロナウイ	3.78	369,212 予算の組替あり	1.49	434,042	1.18	535,451	1.23	
年(総	増減理由 拡大防止のため、イベ		り、イベン 開催で) sevice of	, o			講座等がコロナ前に回 復してきたため。						
進捗	評価	おおむね川	順調	おおむね	順調	おおむね』	頂調	おおむね	順調	おおむね	順調	おおむね	順調	
総合	主な取組内容や成果	改善推進員の書 区での食育活動 自分の健康状態 パランスの良い ようとする人を均 う取り組んだ結: 食教室の参加者	を成、地 がにおり、 を事すす を事すま の は の の の の の の の の の の の の の の の の の	重症化予防のが 望ましい食生活 的な方法を栄養	こめの、 の具体 関係講	拡大防止のため を開催すること かったが、ホー	か、講座 ができな ムページ	拡大防止のため、講座 を開催することができな かったが、ホームページ やピーナネットで配信し た。 広報ちので食育特集「あ なたの減塩応援します」 を掲載した。		は、感染対策をしながら 通常通りに開催し、健康 のために食を大切にこと を学んでもらうこと ができた。広報で給食レ うとピの紹介、ビーナネットで動画を配信し、多く の市民に見てもらうこと ができた。 (総括評価)ネット等を記 用して望ましい食生活		に食を大切にすることを 学んでもらうことができ た。広報で給食レシゼラ 紹介、ピーナネットで動 画を配信し、多くの市民 に見てもらうことができ た。		
合評価	課題	や、地区での栄 の依頼や、講座 者,は減少傾向に 地域に、食の大 情報発信を行う	養講話 の参加 にある。 切さの 方法を	報が充実していか、参加者は減る。地区料理講補導員活動の減	るため 少してい 習会も 数少 とと	地区料理講習会 催できず、離乳 の参加者も減少 食の大切さを情	まなど開 食教室 >した。 報発信	地区料理講習会権できず、離乳の参加者も減少 食の大切さを情	会など開 食教室 >した。 F報発信	理講習会は再になった。切を作するある。の大方名。(総医料理はない、の大方名。(総医料理はない、食の大切さを作ったり、の大切さを作り、の大切さを作り、の大切さを作り、の大切さを作り、の大切さを作り、の大切さを作り、の大切さを作り、の大切さを作り、の大切さを作り、の大切さを作り、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは	開できて青報発信える必要会は再開	地区料理講習者できていない。 食の大切さを情する方法を考えがある。	報発信	
		ページを活用し 事ポランティアを 生活習慣病の予 重症化予防のだ 望ましい食生活	たり、食 を通じて、 予防や、 さめの、 での具体	ページを活用し事ポランティアを生活習慣病の言重症化予防のが望ましい食生活	たり、食 を通じて、 予防や、 とめの、 にの具体	ページを活用し事ボランティアを生活習慣病のう量症化予防のだ望ましい食生活	たり、食 を通じて、 予防や、 とめの、 の具体	や、ホームペー 等を活用する。 食生活改善推注 通じて、地域の しい食生活の具 方法を伝えてい また、コロナ禍 対策をして、出	ジ、 貴に は は は は は は は は は は は は で も 悪 範 範 ・ の ・ の ・ の ・ の ・ の ・ の ・ の ・ の ・ の ・ の ・ の の ・ の の の の の の の の の の の の の	期的にピーナン ホ活用する。食生 推進している。食気 の人具体のようにいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 で	ネットない。 は活で、まない、 は活で、まない、 はない、 はない、 はない、 はない。 はない。 はない。 はない。 はない。 はない。 はない。 はない。	の、望ましい食は 体的な方法を伝 く。一人喜大なでない 大きり沢もく でいり知れたなり るたまた、我のして、我のい で保養生活につい で食食生活につい	の方生え方のあてをしたりのできたがい、単手であるい。	
		1		1		1		1		1		1		
施車	重点	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2		2		2		2		2		2		
策の柱等の				のよい食は、健康実になる。情報という。	生活を住民の方に実践 してもらうことが、健康長 寿につながっていく。 強 践しやすい方法を、情報 発信して、住民が食生 活を改善することで、健		生活を住民の方に実践 してもらうことが、健康! 寿につながっていく。 践しやすい方法を、情報 発信して、住民が食生 活を改善することで、優							
	当者	堀美原											枝	
	投 (2~年括い20のを <td <="" color="1" rowspan="2" td=""><td> 投</td><td> 1</td><td> 1</td><td>項 目 2018年(前年度比) 2019年(前4 (前4 (前4 (前4 (前4 (前4 (前4 (前4 (前4 (前4</td><td>(2018年 (前年度比) 2019年 (前年度比) 投資額 事業費(円) 982,570 883,285 0.91 883,285 0.91 68,144 65,735 0.96 68,144 65,735 0.96 68,144 65,735 0.96 68,144 65,735 0.96 68,144 65,735 0.96 68,144 65,735 0.96 68,144 65,735 0.96 68,144 65,735 0.96 68,144 65,735 0.96 68,144 65,735 0.96 68,144 65,735 0.96 68,144 65,735 0.96 68,144 65,735 0.96 68,144 65,735 0.96 68,144 65,735 0.96 65,735</td><td> 1</td><td> 理</td><td>(2018年 (前年度比) 2019年 (前年度比) 2020年 (前年度比) 2021年 (前年度比) 2021年 (前年度比) 2021年 (前年度比) 2021年 (前年度比) 883,285 0.91 314,398 0.35 573,104 893,285 0.91 314,398 0.35 573,104 893,285 0.91 314,398 0.35 573,104 893,285 0.98 248,510 3.78 389,212 第型コロナウイルスを設于 東京の報管から 2023年 (初年度) 2023年 (初年度) 2023年 (1018年 1019年 1019年</td><td>2018年 (前年度比) 2018年 (前年度比) 2020年 (前年度比) 2021年 (前年度比) 2021年 (前年度比) 2021年 (前年度比) 2021年 (前年度比) 2021年 (前年度比) 883.285 0.91 314.396 0.35 573,104 1.82 (2018年 72.023年 73.02 65.735 0.96 24.810 3.78 389.212 1.49 第221日 71.02 (2018年 72.023年 73.02 65.735 0.96 24.810 3.78 389.212 1.49 第221日 71.02 (2018年 73.02 65.02 65.735 0.96 24.810 3.78 389.212 1.49 第221日 71.02 65.02 6</td><td>接触性</td><td>接着</td><td>### 2019年 (前年度比) 2019年 (前年度日上) 2019年</td></td>	<td> 投</td> <td> 1</td> <td> 1</td> <td>項 目 2018年(前年度比) 2019年(前4 (前4 (前4 (前4 (前4 (前4 (前4 (前4 (前4 (前4</td> <td>(2018年 (前年度比) 2019年 (前年度比) 投資額 事業費(円) 982,570 883,285 0.91 883,285 0.91 68,144 65,735 0.96 68,144 65,735 0.96 68,144 65,735 0.96 68,144 65,735 0.96 68,144 65,735 0.96 68,144 65,735 0.96 68,144 65,735 0.96 68,144 65,735 0.96 68,144 65,735 0.96 68,144 65,735 0.96 68,144 65,735 0.96 68,144 65,735 0.96 68,144 65,735 0.96 68,144 65,735 0.96 68,144 65,735 0.96 65,735</td> <td> 1</td> <td> 理</td> <td>(2018年 (前年度比) 2019年 (前年度比) 2020年 (前年度比) 2021年 (前年度比) 2021年 (前年度比) 2021年 (前年度比) 2021年 (前年度比) 883,285 0.91 314,398 0.35 573,104 893,285 0.91 314,398 0.35 573,104 893,285 0.91 314,398 0.35 573,104 893,285 0.98 248,510 3.78 389,212 第型コロナウイルスを設于 東京の報管から 2023年 (初年度) 2023年 (初年度) 2023年 (1018年 1019年 1019年</td> <td>2018年 (前年度比) 2018年 (前年度比) 2020年 (前年度比) 2021年 (前年度比) 2021年 (前年度比) 2021年 (前年度比) 2021年 (前年度比) 2021年 (前年度比) 883.285 0.91 314.396 0.35 573,104 1.82 (2018年 72.023年 73.02 65.735 0.96 24.810 3.78 389.212 1.49 第221日 71.02 (2018年 72.023年 73.02 65.735 0.96 24.810 3.78 389.212 1.49 第221日 71.02 (2018年 73.02 65.02 65.735 0.96 24.810 3.78 389.212 1.49 第221日 71.02 65.02 6</td> <td>接触性</td> <td>接着</td> <td>### 2019年 (前年度比) 2019年 (前年度日上) 2019年</td>	投	1	1	項 目 2018年(前年度比) 2019年(前4 (前4 (前4 (前4 (前4 (前4 (前4 (前4 (前4 (前4	(2018年 (前年度比) 2019年 (前年度比) 投資額 事業費(円) 982,570 883,285 0.91 883,285 0.91 68,144 65,735 0.96 68,144 65,735 0.96 68,144 65,735 0.96 68,144 65,735 0.96 68,144 65,735 0.96 68,144 65,735 0.96 68,144 65,735 0.96 68,144 65,735 0.96 68,144 65,735 0.96 68,144 65,735 0.96 68,144 65,735 0.96 68,144 65,735 0.96 68,144 65,735 0.96 68,144 65,735 0.96 68,144 65,735 0.96 65,735	1	理	(2018年 (前年度比) 2019年 (前年度比) 2020年 (前年度比) 2021年 (前年度比) 2021年 (前年度比) 2021年 (前年度比) 2021年 (前年度比) 883,285 0.91 314,398 0.35 573,104 893,285 0.91 314,398 0.35 573,104 893,285 0.91 314,398 0.35 573,104 893,285 0.98 248,510 3.78 389,212 第型コロナウイルスを設于 東京の報管から 2023年 (初年度) 2023年 (初年度) 2023年 (1018年 1019年	2018年 (前年度比) 2018年 (前年度比) 2020年 (前年度比) 2021年 (前年度比) 2021年 (前年度比) 2021年 (前年度比) 2021年 (前年度比) 2021年 (前年度比) 883.285 0.91 314.396 0.35 573,104 1.82 (2018年 72.023年 73.02 65.735 0.96 24.810 3.78 389.212 1.49 第221日 71.02 (2018年 72.023年 73.02 65.735 0.96 24.810 3.78 389.212 1.49 第221日 71.02 (2018年 73.02 65.02 65.735 0.96 24.810 3.78 389.212 1.49 第221日 71.02 65.02 6	接触性	接着	### 2019年 (前年度比) 2019年 (前年度日上) 2019年